竜田駅西側
復興まちづくり計画

West side of TATSUTA sta.
in NARAHA TOWN
RECONSTRUCTION
PROGRAM

平成 30 年 3 月
楢葉町

目次

Ⅰ章 「竜田駅西側復興まちづくり計画」の策定に当たって P1

「竜田駅西側復興まちづくり計画」策定に当たっての竜田駅西側の復興を巡る現状や、基本的な考え方を整理しています。

1．策定の趣旨
（1）目的
（2）計画の位置付け

2．竜田駅西側の復興を巡る現状・町を取り巻く環境
（1）町民の避難状況
（2）竜田駅西側を取り巻く状況の変化
（3）策定体制
（4）策定過程

Ⅱ章 復興まちづくりの考え方 P11

竜田駅西側復興まちづくりの考え方について整理しています。

1．復興まちづくりの復興ビジョンと基本方針

2．竜田駅西側の整備に向けたイメージ
（1）復興まちづくりの３つの視点
（2）まちづくり会社等を活用した、民間・行政協働による復興拠点の整備・活性化等
（3）竜田駅西側復興まちづくりワークショップ

Ⅲ章 竜田駅西側の整備の方向性 P19

竜田駅西側の整備の方向性について整理しています。

1．竜田駅西側の復興まちづくりの考え方
（1）復興まちづくりの４つの考え方

2．各ゾーンの整備の方向性
（1）竜田駅西側復興まちづくり計画
（2）昔ながらの賑わいゾーン
（3）駅前交流ゾーン
（4）住環境保全ゾーン
（5）北小跡地ゾーン
（6）竜田駅西側の整備スケジュール（イメージ）

Ⅳ章 町民のきずな・結びつき P29

4つの基本目標の一つである「町民のきずな･結びつき」について、「町民のきずなの維持・発展」、「ふるさとへの思いを繋ぐ」取組を整理しています。

1．町民のきずなの維持・発展に向けた取組
（1）町民の交流機会の確保
（2）町からの情報提供の充実・円滑化

Ⅴ章 計画の実現に向けて P31

「竜田駅西側復興まちづくり計画」に記載された取組を推進する上での体制や、今後の課題等を整理しています。

1．関係者の連携による計画の推進と進捗管理
（1）関係者の連携による計画の推進
（2）進捗管理

2．連携・協働
（1）国・県との連携・協働
（2）町民との協働・民間活力の積極的活用

3．今後検討を進めるべき課題
4．今後の計画の見直しについて

資料編 P35

「竜田駅西側復興まちづくり計画」策定に係る検討委員と意向調査集計結果を整理しています。

1．竜田駅西側復興まちづくり計画庁内検討委員会委員名簿

2．竜田駅西側復興まちづくり計画有識者委員名簿

3．意向調査集計結果の概要

Ⅰ章 「竜田駅西側復興まちづくり計画」の策定に当たって

「竜田駅西側復興まちづくり計画」は、竜田駅西側の復興まちづくりや町を取り巻く社会情勢の変化等を踏まえて策定しました。

Ⅰ章 「竜田駅西側復興まちづくり計画」の策定に当たって

1. 策定の趣旨

（1）目的

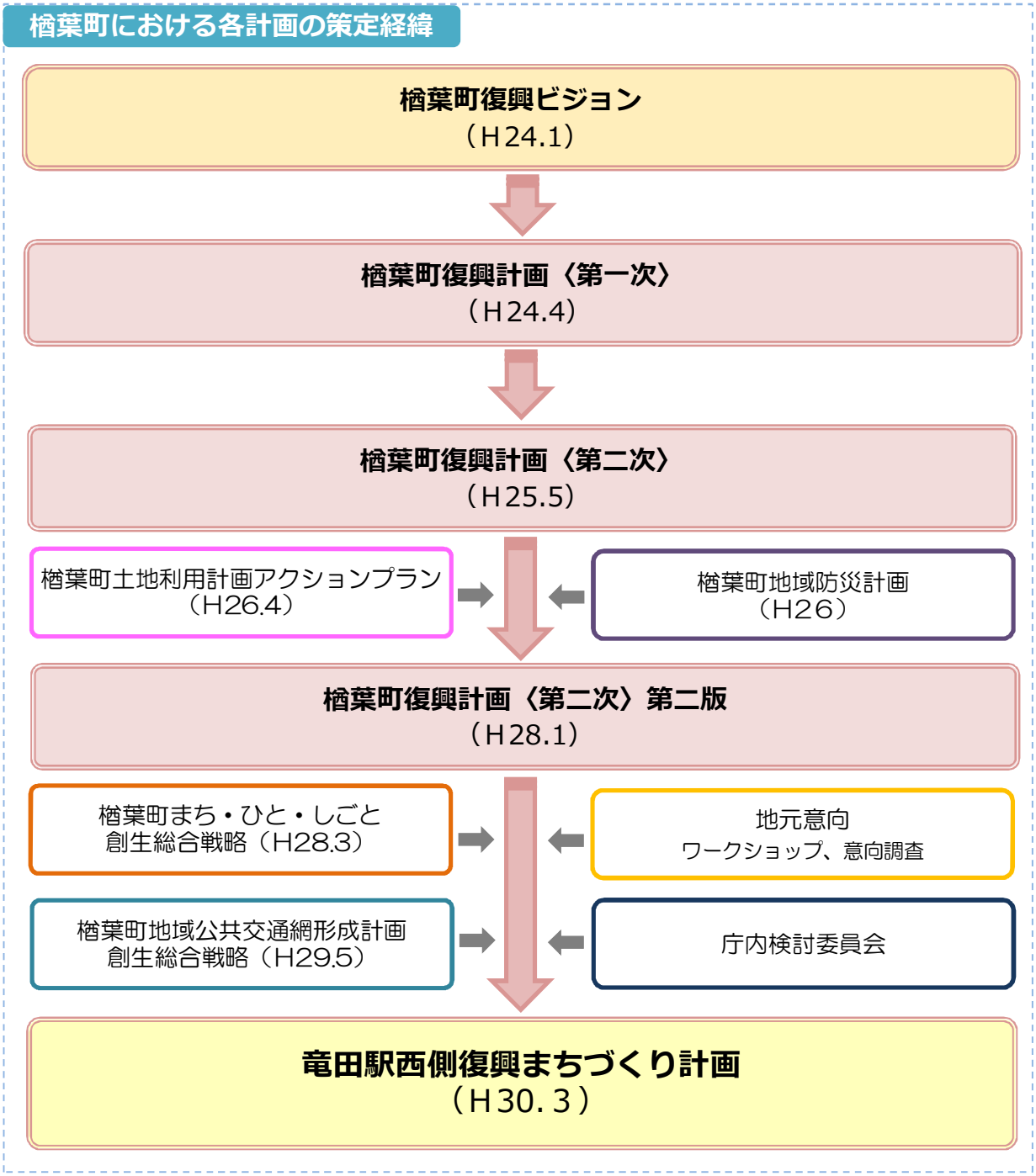
○竜田駅西側復興まちづくり計画は、「楢葉町復興計画〈第二次〉第二版」に記載されていた基本理念「安全・安心な生活の再建」、「町民の主体的参加と自立」、「次世代への継承」、「広い視野に立つ復興」に係る各種の施策を横断的に整理し、竜田駅西側周辺のまちづくりに重点を置いた「まちづくり計画」として、新たに策定するものです。

本計画は、上位関連計画である「楢葉町復興計画」、「楢葉町土地利用計画アクションプラン」、「楢葉町地域防災計画」等との整合を図りながら策定します。

（2）計画の位置付け

○楢葉町では、これまで「楢葉町復興ビジョン（平成 24 年 1 月）」を始め、「楢葉町復興計画〈第二次〉（平成 25 年 5 月）」、「楢葉町土地利用計画アクションプラン（平成 26 年 4 月）」、「楢葉町地域防災計画（平成 26 年）」や各種関連計画を踏まえ、平成 28 年 1 月に「楢葉町復興計画〈第二次〉第二版」を策定したところです。

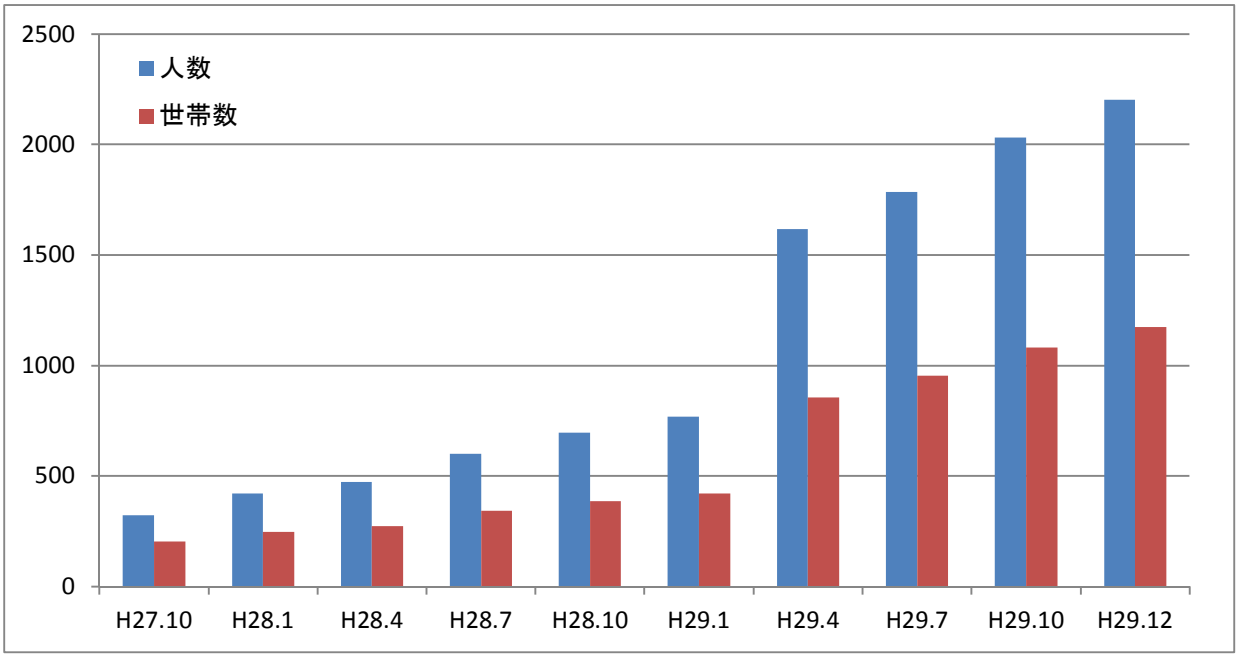
復興まちづくり計画は、復興計画における基本理念である「安全・安心な生活の再建」、「町民の主体的参加と自立」、「次世代への継承」、「広い視野に立つ復興」に係る各種の施策を横断的に整理し、竜田駅西側の復興に向けた取組内容を示すものです。



2．竜田駅西側の復興を巡る現状・町を取り巻く環境

(1) 町民の避難状況

○避難指示解除から２年６ヶ月が経過し、約３割の方が帰還しています。平成２９年４月に楢葉町復興計画で示した帰町目標の時期を迎え、現在も順調に帰還者数が伸びています。



	住民基本台帳人口 ①	町内居住者 ②	帰還率（町内居住率） ②÷①
人数	7,141	2,203	30.85%
世帯数	2,926	1,173	40.09%

（平成 29 年 12 月時点）

(2) 竜田駅西側を取り巻く状況の変化

震災前の竜田駅西側の状況

○楢葉町の玄関として、昔ながらの商店等による賑わい空間を形成

・震災前は、竜田駅を中心に飲食店やスーパー、酒屋等、地元商店が立地し、人々が憩えるにぎわい空間を形成していました。

○大山祇神社を中心としたコミュニティ形成

・夏祭りの開催等、大山祇神社を中心として、住民コミュニティが形成されていました。

○町役場等、公共施設や生活利便施設の集約による利便性の高い市街地を形成

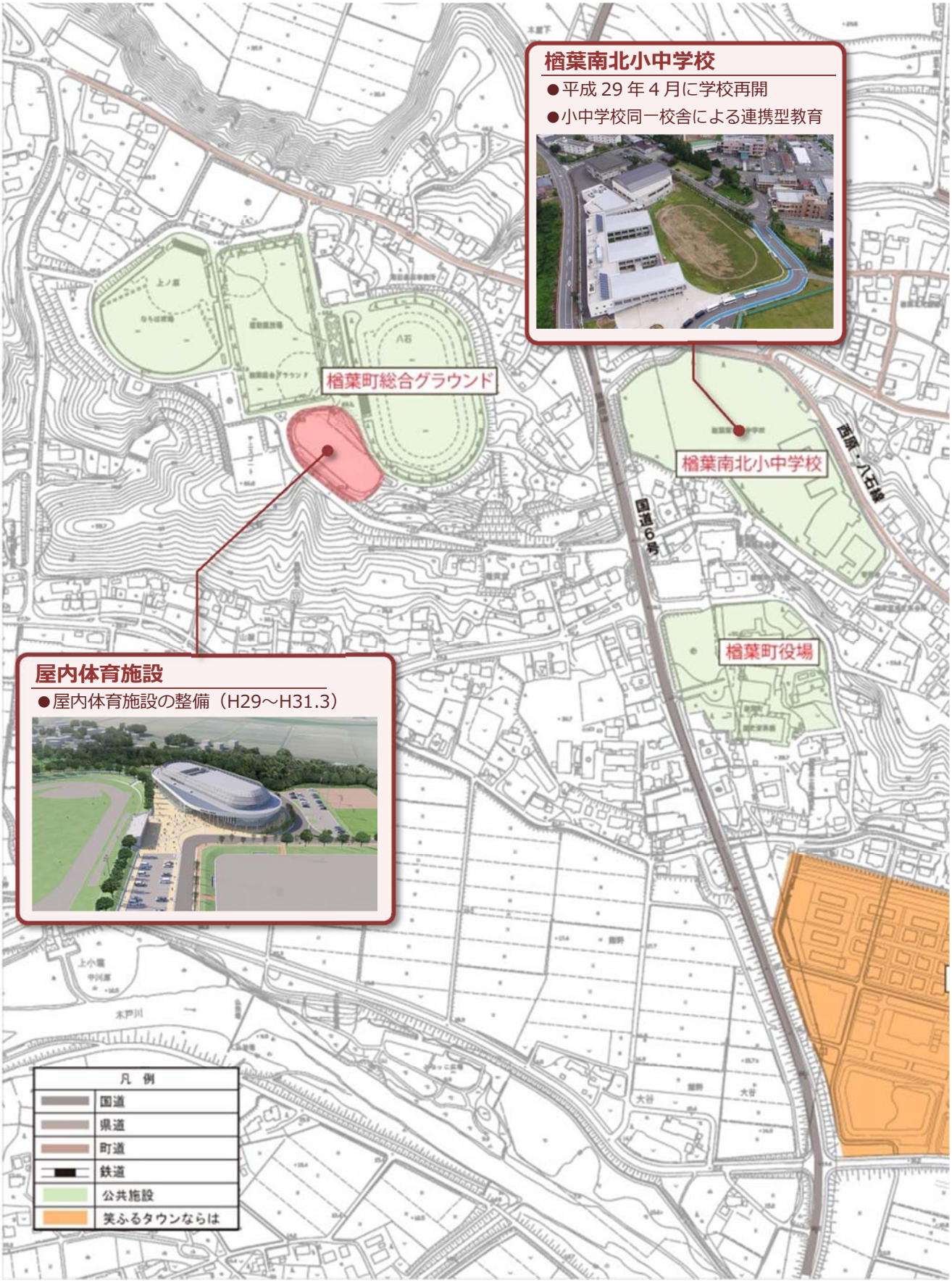
・竜田駅西側は、駅に近く、町役場や体育館、公民館等の公共施設、スーパー等の生活利便施設も立地しており、利便性の高く、住みやすい市街地を形成していました。

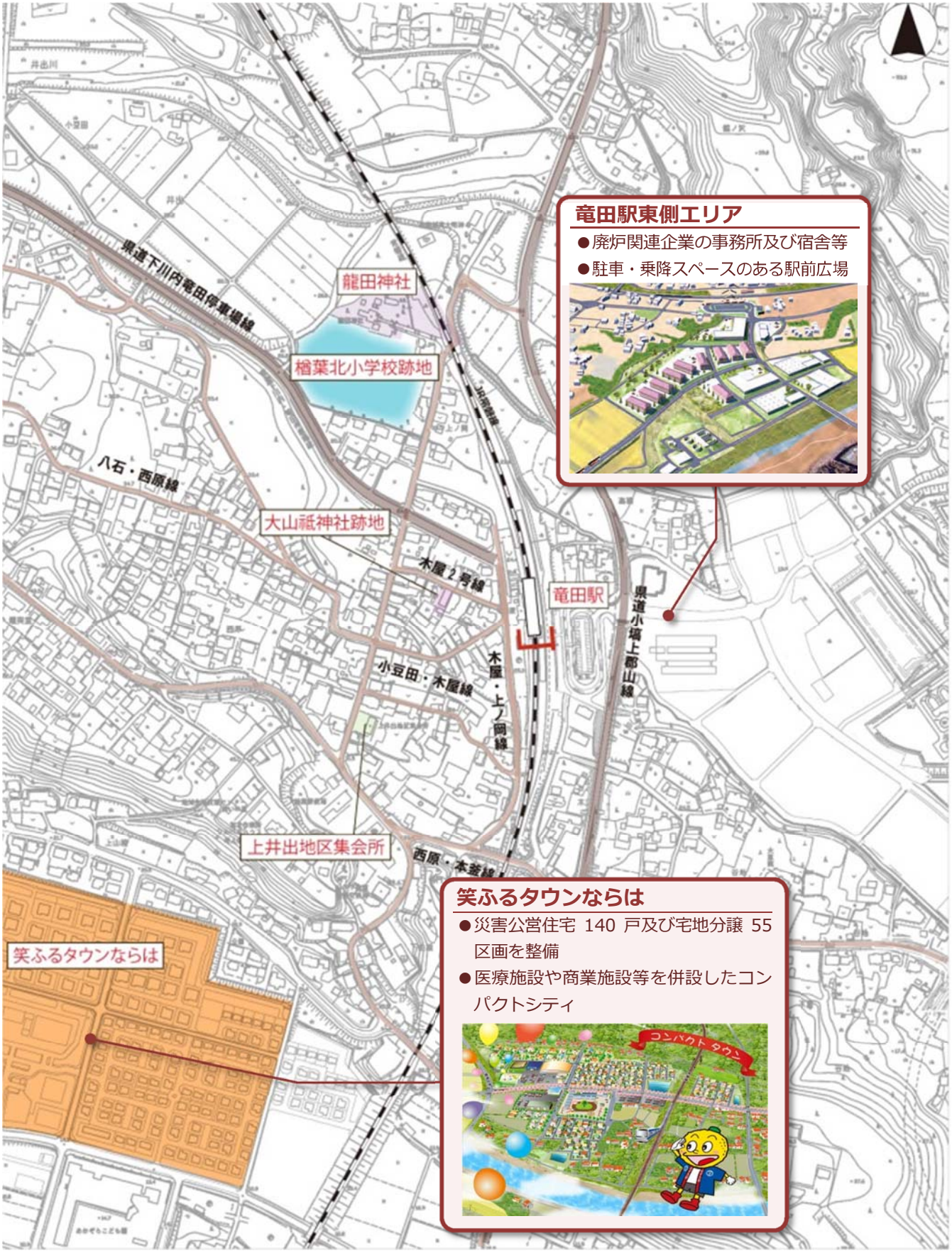
【震災前の竜田駅西側エリア】

(平成 19 年撮影)

現在の竜田駅西側の状況

○竜田駅西側エリアの魅力を高める周辺施設の整備状況について以下に示します。

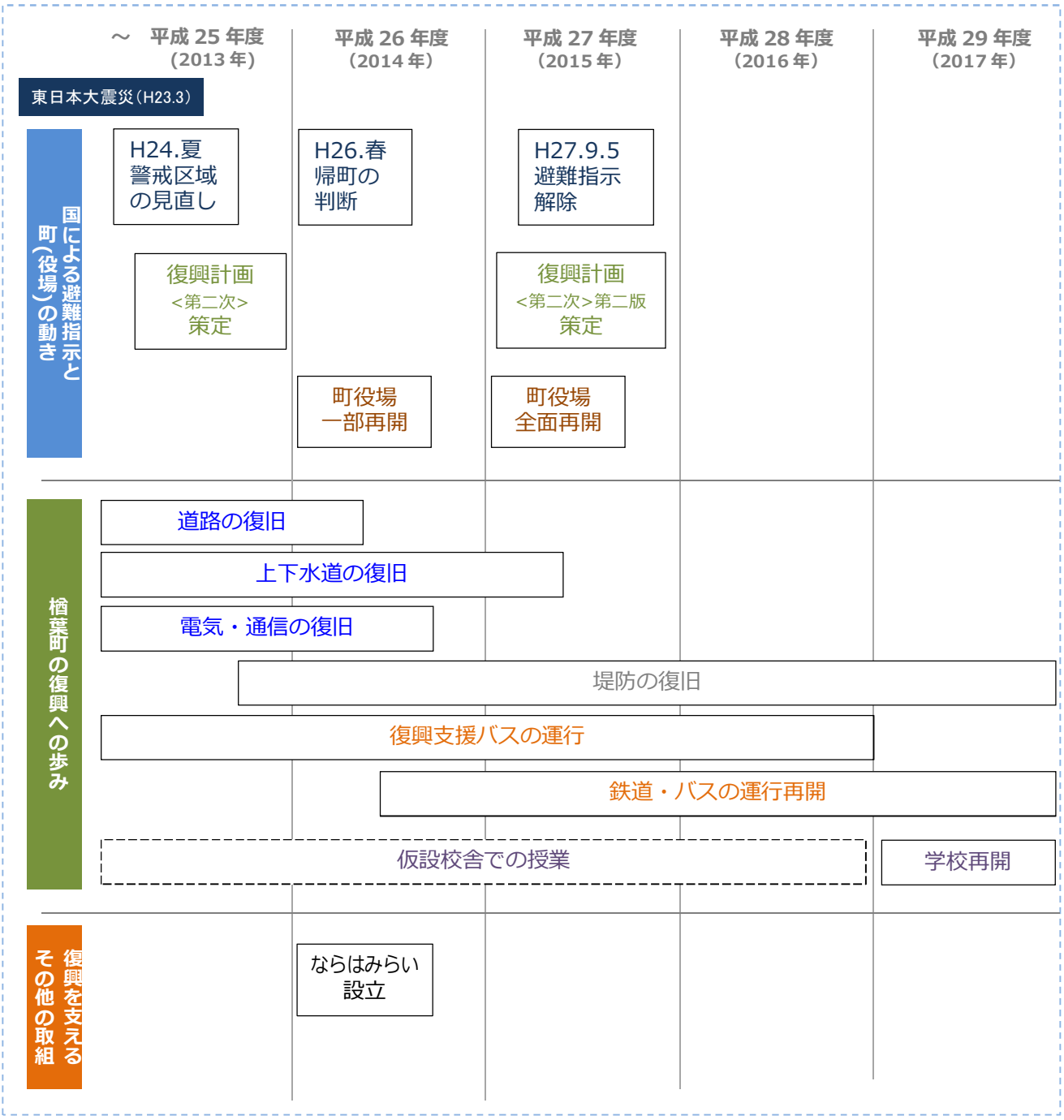



竜田駅東側エリア
●廃炉関連企業の事務所及び宿舎等
●駐車・乗降スペースのある駅前広場
県道下川内竜田停車場線
龍田神社
楢葉北小学校跡地
八石・西原線
大山祇神社跡地
木屋2号線
竜田駅
県道小塙上郡山線
小豆田・木屋線
木屋・上ノ岡線
上井出地区集会所
西原・本菱線
笑ふるタウンならは
笑ふるタウンならは
●災害公営住宅 140 戸及び宅地分譲 55 区画を整備
●医療施設や商業施設等を併設したコンパクトシティ
コンパクトタウン

竜田駅西側を取り巻く状況の変化

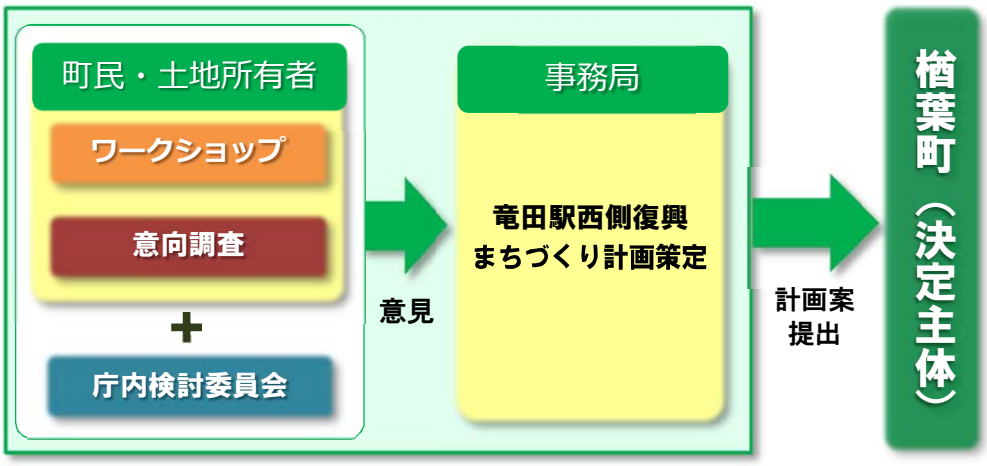
○避難指示解除から２年６ヶ月が経過する中、町の復興は少しずつ動き出しています。特に、「竜田駅西側復興まちづくり計画（平成 30 年３月予定）」の策定後は、竜田駅西側が抱える課題の解決に向けて、計画的な取組を推進しています。

竜田駅西側を取り巻く状況の主な変化は、以下のとおりです。



（３）策定体制

○復興まちづくり計画の策定に当たっては、町民から広くご意見をいただくとともに、有識者から専門的なご提案をいただくために、下図のような体制で計画の策定作業を進めました。



復興まちづくり計画の体制図

【ワークショップ】

町民の思いやご意見を復興まちづくり計画に反映させるため、専門家を含めた「ワークショップ」を 5 回開催し、専門家からの助言を受けながら町民と意見交換を実施しました。

【意向調査】

より多くの町民からご意見をいただくために、対象地区にお住いの方や不動産所有者へアンケートによる意向調査を実施しました。

【庁内検討委員会】

関係各課等の長で構成された「庁内検討委員会」を 7 回開催し、ワークショップや意向調査の結果を踏まえ、検討を重ねながら計画案の整理等を行いました。

（4）策定過程

■ワークショップ（平成 29 年 7 月～平成 30 年 1 月：計 5 回）

ワークショップでは、上井出行政区に係る町民等を対象にまちづくりの専門家を交えながら地区の特性や課題、将来の方向性等について意見交換を行いました。

第 1 回（H29.7.29）
- まち歩き
- まちの特性と課題について

第 2 回（H29.10.15）
- まちに対する思いや残したいもの、改善したいもの

第 3 回（H29.11.5）
- まちづくりの将来の方向性について

第 4 回（H29.12.10）
- まちづくりのコンセプト
- まちの事業について

第 5 回（H30.1.28）
- 竜田駅西側意向調査結果
- 竜田駅西側復興まちづくり計画

第 1 回ワークショップ

第 2 回ワークショップ

第 3 回ワークショップ

第 4 回ワークショップ

第 5 回ワークショップ

■意向調査（平成 29 年 11 月下旬～12 月上旬）

意向調査では、復興まちづくりに関することや計画策定に向けた検討状況等について、上井出行政区に係る町民等を対象に広く意見を聴取しました。

●調査対象
- 上井出行政区に住民票や不動産をお持ちの方　526 件　※回答率 10.1%

●調査項目
- 楢葉町への帰還状況
- 現在の土地、建物の利用状況
- 将来の土地、建物の活用
- 将来の竜田駅西側　等

■庁内検討委員会（平成 29 年 6 月～平成 30 年 1 月：計 7 回）

庁内検討委員会は、関係各課等の長により組織され、本計画について様々な検討を行いました。

第 1 回（H29.6.15）
- ワークショップの進め方

第 2 回（H29.6.20）
- 会議の進め方等
- グループワーク
- 事例紹介

第 3 回（H29.7.5）
- まち歩き及び第 1 回ワークショップの進め方

第 4 回（H29.9.22）
- まち歩き及び第 1 回ワークショップの報告
- 第 2 回ワークショップの進め方
- 意向調査の実施について

第 5 回（H29.10.23）
- 第 2 回ワークショップの報告
- 第 3 回ワークショップの進め方

第 6 回（H29.11.27）
- 第 3 回ワークショップの報告
- 第 4 回ワークショップの進め方

第 7 回（H30.1.12）
- 竜田駅西側意向調査結果について
- 竜田駅西側復興まちづくり計画について

第 7 回庁内検討委員会

Ⅱ章 復興まちづくりの考え方

竜田駅西側復興まちづくりの復興ビジョンとして、「かつての賑わいや人と人とのふれあいを取り戻し、ふるさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』の実現」を掲げ、「災害時の安全性と平常時の利便性を兼ね備えた安全・安心な市街地の形成」、「地元商店の再建や古民家等の地域資源を活用した“思い出の商店”の再生」、「まちの玄関口である竜田駅西側駅前空間の有効活用による地域交流拠点の形成」及び「豊かな自然環境や昔ながらの家並みなど、“楢葉らしさ”を感じられる原風景の継承」の４つの基本方針の下、計画を策定しました。

Ⅱ章 復興まちづくりの考え方

1．復興まちづくりの復興ビジョンと基本方針

○竜田駅西側エリアは、かつて、楢葉町の中心地であり賑わいあふれるまち並みが形成されてました。
平成 27 年 9 月 5 日午前 0 時に楢葉町に出されていた避難指示が解除され、徐々に町民の帰還が進んでおりますが、楢葉町がかつての賑わいを取り戻し、ふるさとを感じ“楢葉らしさ”を継承しながら、安全・安心で利便性が高く、住みやすいまちの復興を目指すため、以下のとおり復興ビジョンを掲げました。

復興ビジョン

「かつての賑わいや人と人とのふれあいを取り戻し、ふるさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』の実現」

○復興ビジョンを実現するための柱となる 4 つの基本方針を以下のとおり定め、竜田駅西側の復興に向けて全力で取り組んでいきます。

住む 災害時の安全性と平常時の利便性を兼ね備えた安全・安心な市街地の形成

- 県道等、幹線道路に繋がる道路の一部拡幅による歩行空間と災害時における避難路を確保します。
- 空き地などを整備し、平常時には公園や広場として活用し、災害時には避難場所となる空間を確保します。

賑わい 地元商店の再建や古民家等の地域資源を活用した〝思い出の商店〟の再生

- 駅前通りを中心に震災前の地元商店の再建を目指します。
- 住民の意向を踏まえた取組等による、昔ながらの賑わい再生を目指します。
- 地域資源（古民家、空き地、空き家等）を活かした賑わい空間の創出を目指します。

交流 まちの玄関口である竜田駅西側駅前空間の有効活用による地域交流拠点の形成

- まちの玄関口として、周辺の観光資源と地域を繋ぐ結節点の形成を目指します。
- 東西自由通路の整備による東側との交流促進を目指します。
- 駅前空間や現駅舎の活用（直売所、夏祭り等）による地域内外における交流拠点の形成を目指します。

原風景 豊かな自然環境や昔ながらの家並みなど、〝楢葉らしさ〟を感じられる原風景の継承

- 緑豊かな自然環境や起伏のある地形、瓦屋根、大きな敷地、個性あふれる家屋等、“楢葉らしさ”を感じられる原風景を継承します。
- まちなかの屋敷林や木々に囲まれた路地等、緑を感じられる地域資源を保全します。

2．竜田駅西側の整備に向けたイメージ

（1）復興まちづくりの３つの視点

●女性や子どもなどさまざまな町民の参画

復興をより良く実現させるため、町民のアイディアや能力を活用していく必要があります。女性や子どもたちをはじめ、さまざまな立場の町民が復興計画に参画し、町民主体で進める復興まちづくりを目指します。

●まちづくり会社を活用した町民主体のまちづくり体制

竜田駅西側の復興は、民間の力だけでも行政の力だけでも成しえません。まちづくり会社等を活用した、町民と行政との協働により、町民参加の復興まちづくりを推進します。

●広域的な連携による双葉郡の力の結集

竜田駅西側を含め、楢葉町の復興に向けた取組は今後も続きます。こうした中、周辺市町村との広域的な連携を図り、双葉郡内の力を結集した復興まちづくりを目指します。

（2）まちづくり会社等を活用した、民間・行政協働による復興拠点の整備・活性化等

○竜田駅西側をはじめ、今般の事故に伴う避難指示区域内では、行政主導の公共事業を中心に復興に向けた取組が段階的に進んでいる一方、生活や事業活動に大きな制限がかかる中、民間の担い手による取組が進みにくい状況になっています。
しかしながら、町の復興を真に果たしていくためには、公共事業に加え、町民主体の民間の担い手による復興の動きを加速させることにより、民間と行政が協働してまちづくりを進めていくことが不可欠です。
これらを踏まえ、町としても、復興拠点の整備・活性化等を推進するため、担い手となる町民や地元事業者による組織化を促すとともに、各種の団体と積極的に連携し、町民主体による復興まちづくりの推進を図ります。

活動の例

ソフト事業	ハード事業
・ イベント開催 ・ 防災、防犯活動 ・ 景観維持活動（除草・ごみ拾い等） ・ 空き地、空き家情報の集約・発信 ・ コミュニティ維持活動　等	・ 店舗の補修 ・ 農地保全　等

一般社団法人ならはみらいの取組

「一般社団法人ならはみらい」は、楢葉町民が主体となったまちづくりを主導する目的で設立された組織です。この「ならはみらい」は、「きずな・安心・活力」を取り戻し、誇りの持てる魅力あるまちづくりを目指して“新生ならは”のまちづくりを主導する役割を果たしています。

●事業のイメージ例

きずな
新たなきずなを育み、にぎわいのあるまちづくりに向けた取組
- 新たな街並みの形成に関する事業
- 空き家・空き地バンク運営事業　等

安心
不安を払しょくし、安心のあるまちづくりに向けた取組
- 放射線不安払拭・生活再建相談受付事業
- 生活再建支援サービス事業　等

活力
活力を取り戻し、生きがいのもてるまちづくりに向けた取組
- 生きがいづくり事業
- 生活連絡相談員事業　等

（3）竜田駅西側復興まちづくりワークショップ

第 1 回ワークショップ（H29.7.29）

●参加人数

・ 50 人

●検討テーマ

・ まち歩き

・ まちの特性と課題について

●意見

このまちの良いところについて	・ ひとつひとつの建物が個性的 ・ 空間が開けているまち並みが素敵である ・ 庭や花が豊かな景色が印象的 ・ 自然の中で昔ながらの家やなつかしさを感じる小道などがある ・ いろいろな人の思い出の場所であるところ
残したい歴史・文化について	・ 竜田駅前の盆踊り ・ 全て新しくするのではなく、直すところや残すところも大切にして欲しい ・ 昔からあるお店 ・ 和太鼓、手芸など独自のものを広めていく ・ 山の神をまつる神社
このまちの魅力を高める方法について	・ 竜田駅周辺の人々がくつろげ、憩いの場となるような施設や場所が必要 ・ まち独自のイベントの開催 ・ 駅前にお店を増やして、周辺の住民や会社の人たちにも来て欲しい ・ 広い土地を利用して様々な施設を誘導して欲しい ・ お祭りを盛んに行って欲しい ・ 歴史のある建築物が多く、古民家を活用したお店やカフェを営業して欲しい
このまちでこれから必要なものについて	・ 商業（各種） ・ 交流のできる喫茶店、憩える公園 ・ 住民が集える場所「駅舎の再利用」 ・ 人が集まる所 ・ まち歩きの見どころマップ
その他	・ 大都会の子供達が自然と交わるところとして夏休みなど体験学習の場として提供する（ホームステイも可能）

まち歩きと第 1 回ワークショップの様子

第 2 回ワークショップ（H29.10.15）

●参加人数

・ 7 人

●検討テーマ

・ まちに対する思いや残したいもの、改善したいもの

●主な意見

まちに対する思いについて	・解体がどんどん進み、竜田駅西口の賑わいがなくなり寂しい ・毎年 11 月の龍田神社のお祭りや、駅前の盆踊りが懐かしい ・楢葉町は何もないところと思われがちだが、台風や気象災害などが少なく住みやすい、何もないところがいいところ ・駅前の飲食店は約束しなくても誰かに会え、集まれる場だった
まちに残したいもの、つくりたいもの、場所について	・すずかけ文庫など人が集まれる現駅舎 ・愛着のある、楢葉っぽいモノ、駅舎など ・ベビーカーを押しながら参加できるイベント（秋空散策あるこう会） ・目が届いて子どもが安全に遊べる場所 ・駅前のカフェや地場物産品を販売するお店 ・新しく住むところとしての住宅地 ・駅から高校生や子どもが安全に歩ける歩道のついた道路 ・お母さんが子どもを見まもりながら、友だちと話せる場所 ・民間（個人事業者）の力を活かした賑わいづくり
困っている、改善したいもの、場所について	・解体がどんどん進み、空地が目立ち、アパートが建つなど、どんなまちになるのか不安 ・駅から国道 6 号方面にかけて目印が少なく道が案内できない ・消防車が入れないような狭い道路 ・北小跡地がどうなるのか ・北小跡地に、人が集まれる仕掛けや仕組みづくりが必要 ・子どもたちが遊びたくても人の目が行き届かず不安 ・客観的データや外部のアドバイスを活かしたまちづくり計画 ・町民の声を集約する庁内の体制づくり

第 2 回ワークショップの様子

第３回ワークショップ（H29.11.5）

●参加人数

・ 24 人

●検討テーマ

・ まちづくりの将来の方向性について

●主な意見

楢葉町全体、竜田駅西側のコンセプトについて	**【町全体】** ・ 多様な年代がバランス良く自然のなかで安心して暮らせる町 ・ 学生などの若者や、農業を活用した活力ある町 **【駅西側】** ・ 田舎の良さを活かしたほっこり感 ・ 駅を町の中心として位置づける
駅周辺について	・ 新しく改築する際、現駅舎は残すべき ・ 駅周辺の賑わいづくりとして、土産物や駅弁などの販売、立ち飲みバーなど（担い手は観光協会、商工会、ＮＰＯなど） ・ 駅前に治安のための交番、祭りや盆踊りの開催場所が必要 ・ 駅前に町営駐車場を設けるべき
道路計画について	**【県道 下川内竜田停車場線】** ・ 国道６号から駅に向かう道路をメインストリートと位置づけ、駅前に外からの人を引き込む **【町道 八石・西原線】** ・ 安全・安心に歩ける道や道路沿いに気軽に休めるたまり場 **【町道 木屋２号線】** ・ 石畳、カラー舗装、照明などでこじゃれた雰囲気に
北小学校跡地利用について	・ 帰町者や転入者の住宅地として、また専門学校や病院などの公的な集客施設 ・ すずかけの木、記念樹や二宮金次郎像などの思い出のものを残し伝える
笑ふるタウンとの連携について	・ ビューポイントを活かした歩道の整備 ・ コミュニティバスの運行

第３回ワークショップの様子

第４回ワークショップ（H29.12.10）

●参加人数
- 16 人

●検討テーマ
- まちづくりのコンセプト
- まちの事業について

●主な意見

コンセプトについて	・空洞化対策のためにも、ワークショップで出てきた現駅舎の活用などの提案を踏まえ、各ゾーンの方向性に沿った取組を進められるとよい （現駅舎の活用：観光案内所、直売所、休憩所等）
道路計画について	・小豆田・木屋線の改築工事計画が途中で止まっているので、駅前まで直線的に繋げて欲しい ・楢葉町の道路は屈曲が多い。町を発展させるためには碁盤の目のように道路を整備した方がよい ・超高齢化社会を迎え、高齢者が車を手放す時代になりつつある。町でも高齢者が利用可能な道路網（歩行者ネットワーク）や交通手段等について考えて欲しい
北小学校跡地利用について	・宅地開発については、周辺の道路が狭く子育て世代への宅地としては好ましくない。広場として活用してはどうか ・住宅地ならば北小跡地ではなく、駅前を開発して人を呼び込んだ方が駅前の活性化に繋がるのではないか

第４回ワークショップの様子

第 5 回ワークショップ（H30.1.28）

●参加人数

・ 21 人

●検討テーマ

・ 竜田駅西側意向調査結果

・ 竜田駅西側復興まちづくり計画

●主な意見

地元商店の再生について	・震災前に飲食店をしており、現在、再建に向けた準備を進めている。みんなが集まれるような憩いの場をつくりたい ・駅前の賑わいをもう一度取り戻したい。駅前の空き地を活用し、お店をやりたい人を集めて集合店舗を検討している ・駅前に賑わいを持たせることで交流人口の増加にも繋がる ・電車からの見え方が大事
復興の進め方について	・復興を進めるためには、司令塔となるような組織が必要。まちの復興のために働けるような組織をつくる必要がある ・まちの復興に当たっては、まず、道路づくりが重要となる。八石・西原線と駅を繋ぐ道路を拡幅すると住みよいまちになるのでは
その他	・竜田駅をまちの玄関口として復興させるためには、電車からの風景が大事であり、アイストップとなるような場所や施設が欲しい ・未活用の所有地があるので、例えば広場やパークゴルフ等、まちの復興に役立てたい ・「ツール・ド・ならは」など、楢葉の自然を活かした取組を何か興す必要がある

第５回ワークショップの様子

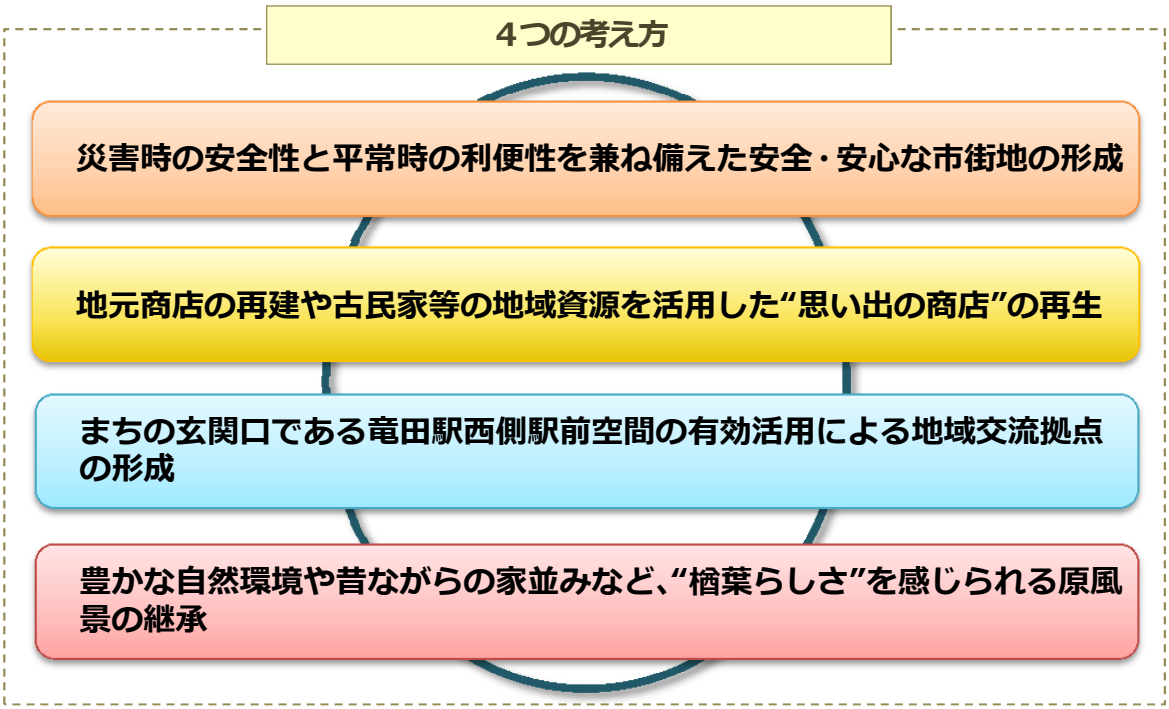
Ⅲ章 竜田駅西側の整備の方向性

復興まちづくりの考え方を基に、整備の方向性を整理しました。

１．竜田駅西側の復興まちづくりの考え方

（１）復興まちづくりの４つの考え方

○竜田駅西側の整備の方向性について、次の４つの考え方を基に、復興まちづくりを推進します。



○竜田駅西側の復興まちづくりの 4 つの考え方を基に、具体的な整備の方向性について以下に示します。

災害時の安全性と平常時の利便性を兼ね備えた安全・安心な市街地の形成

- 県道等の幹線道路に繋がる道路の一部拡幅による歩行者の安全性と災害時における避難路の確保
- 空き地などを整備し、平常時には公園や広場として活用し、災害時には避難場所となる空間の確保

地元商店の再建や古民家等の地域資源を活用した“思い出の商店”の再生

- 駅前通りを中心に震災前の地元商店の再建や住民の意向を踏まえた取組を検討するなど、思い出がある商店の賑わいの再生を図る
- 古民家や空き地、空き家等の活用を図るなど、地域資源を活かし、賑わい空間の創出を図る
- 地域コミュニティの核となっていた神社の再生を図るなど、人が集まり、憩う、コミュニティ空間の創出を図る

まちの玄関口である竜田駅西側駅前空間の有効活用による地域交流拠点の形成

- まちの玄関口として、また、観光地等の周辺地域と繋ぐ結節点の形成を図る
- 竜田駅東西で機能分担を行うとともに、東西自由通路を整備し、東側との交流促進を図る
- 駅前空間や現駅舎を活用し、直売所や夏祭り等のイベントを行うなど、地域内外における交流拠点の形成を図る

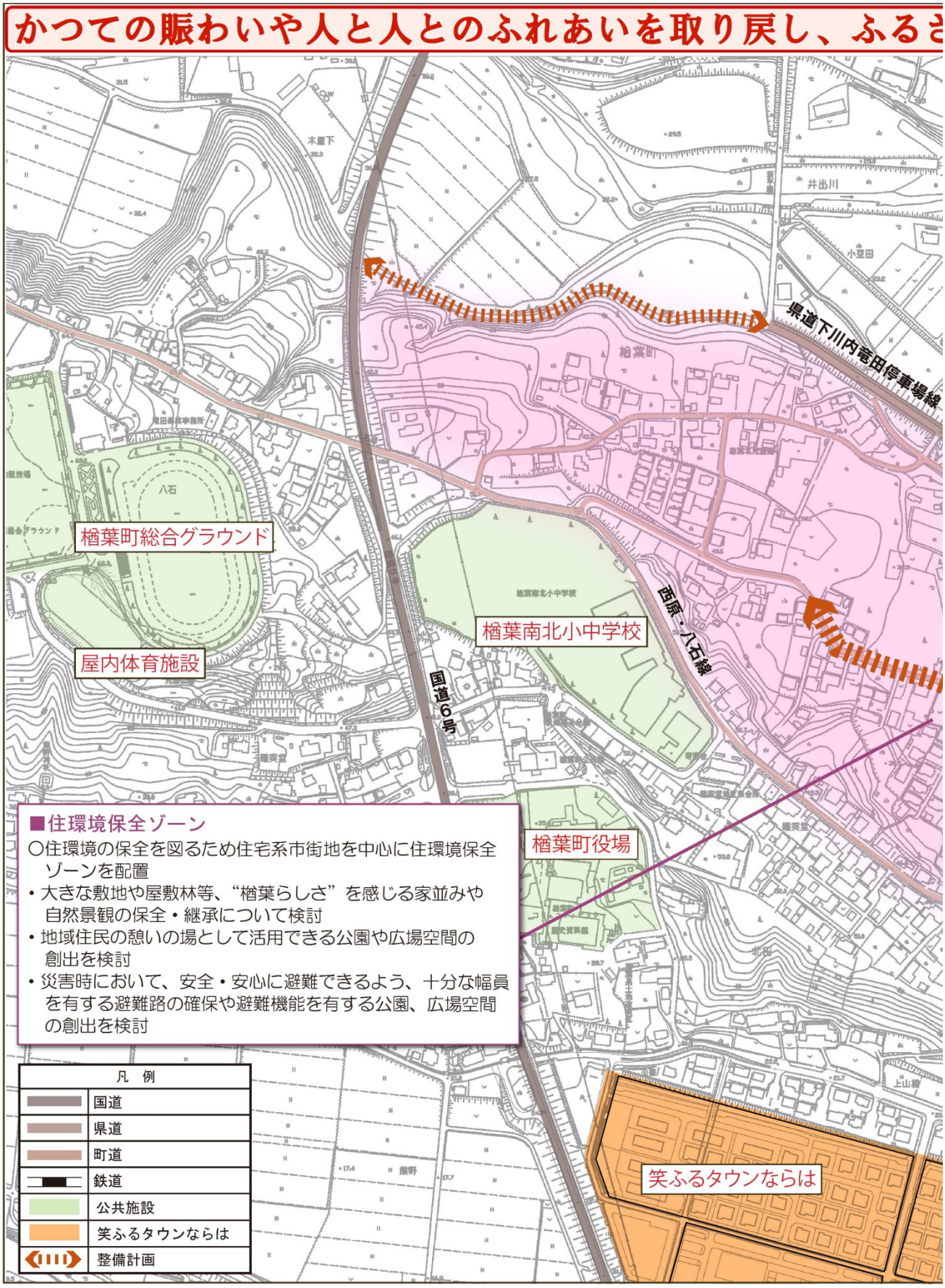
豊かな自然環境や昔ながらの家並みなど、“楢葉らしさ”を感じられる原風景の継承

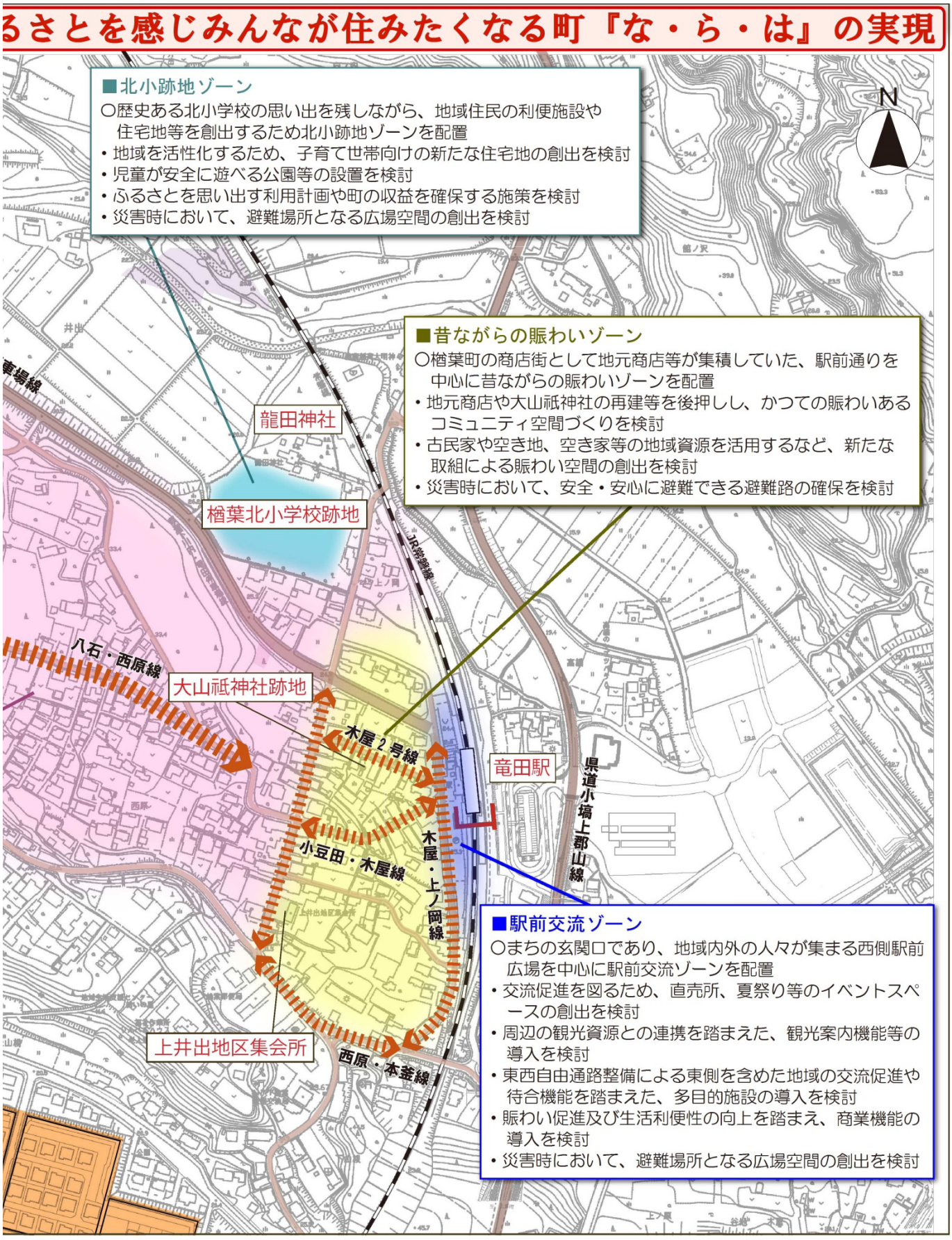
- 緑豊かな自然環境や起伏のある地形、大きな敷地、個性あふれる家屋等、“楢葉らしさ”を感じられる原風景の継承を図る
- まちなかの屋敷林や木々に囲まれた狭い路地等、緑を感じられる地域資源の保全を図る

2．各ゾーンの整備の方向性

（1）竜田駅西側復興まちづくり計画

○竜田駅西側復興まちづくり計画については、次のとおりです。




るさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』の実現
■北小跡地ゾーン
〇歴史ある北小学校の思い出を残しながら、地域住民の利便施設や住宅地等を創出するため北小跡地ゾーンを配置
・地域を活性化するため、子育て世帯向けの新たな住宅地の創出を検討
・児童が安全に遊べる公園等の設置を検討
・ふるさとを思い出す利用計画や町の収益を確保する施策を検討
・災害時において、避難場所となる広場空間の創出を検討
■昔ながらの賑わいゾーン
〇楢葉町の商店街として地元商店等が集積していた、駅前通りを中心に昔ながらの賑わいゾーンを配置
・地元商店や大山祇神社の再建等を後押しし、かつての賑わいあるコミュニティ空間づくりを検討
・古民家や空き地、空き家等の地域資源を活用するなど、新たな取組による賑わい空間の創出を検討
・災害時において、安全・安心に避難できる避難路の確保を検討
■駅前交流ゾーン
〇まちの玄関口であり、地域内外の人々が集まる西側駅前広場を中心に駅前交流ゾーンを配置
・交流促進を図るため、直売所、夏祭り等のイベントスペースの創出を検討
・周辺の観光資源との連携を踏まえた、観光案内機能等の導入を検討
・東西自由通路整備による東側を含めた地域の交流促進や待合機能を踏まえた、多目的施設の導入を検討
・賑わい促進及び生活利便性の向上を踏まえ、商業機能の導入を検討
・災害時において、避難場所となる広場空間の創出を検討
N
龍田神社
楢葉北小学校跡地
大山祇神社跡地
竜田駅
上井出地区集会所
JR常磐線
八石・西原線
木屋2号線
小豆田・木屋線
木屋・上ノ岡線
西原・本釜線
県道小塙上郡山線

（２）昔ながらの賑わいゾーン

○楢葉町の商店街として地元商店等が集積していた、駅前通りを中心に昔ながらの賑わいゾーンを配置

町民の主な意見

【道路・付帯施設】

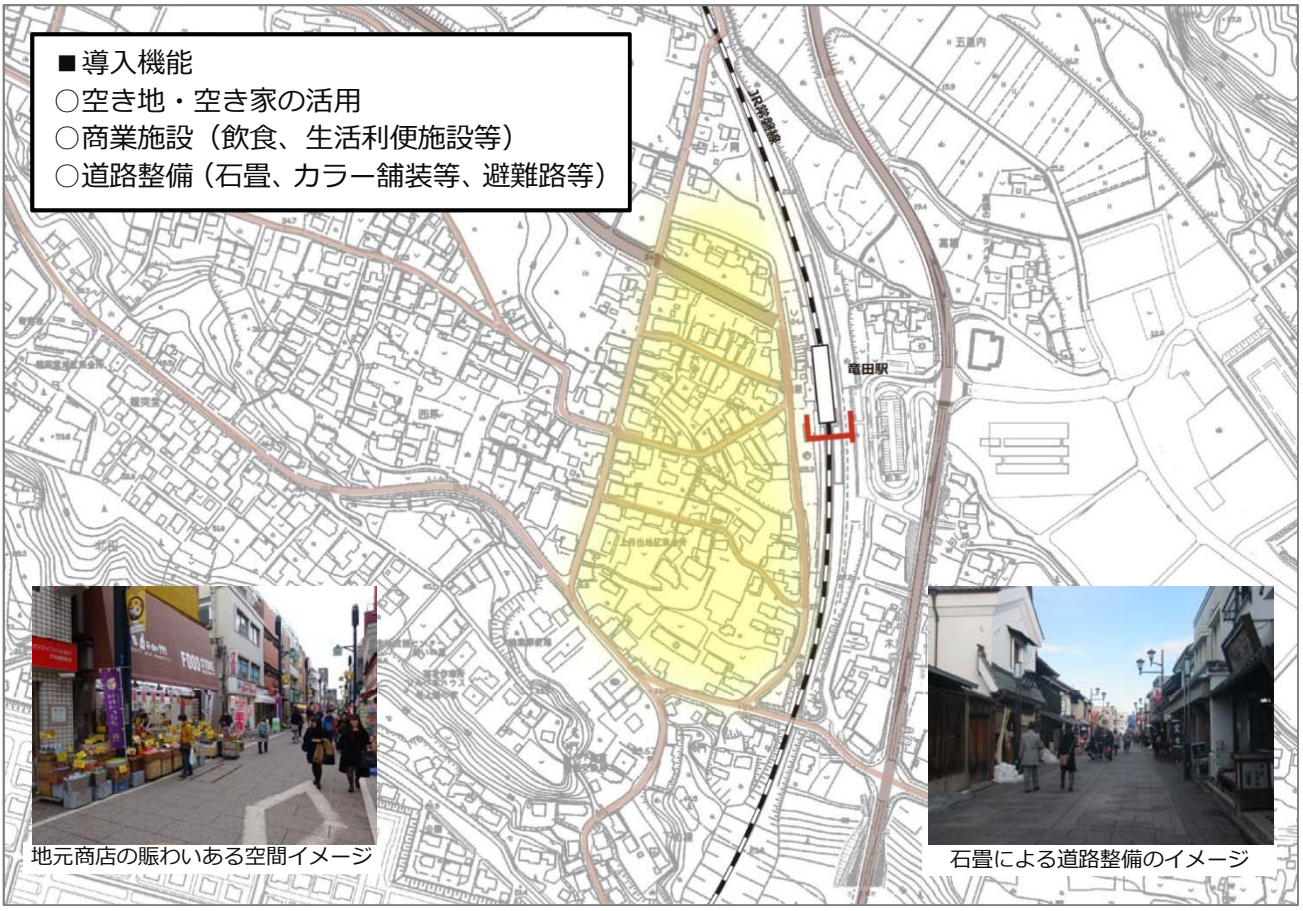
- 石畳やカラー舗装等による景観に配慮した道路整備
- 歩行者空間を確保するため、一方通行による道路規制
- 道路が狭い
- 街灯が少ないため夜道が暗い

【施設等】

- 商店の復活によるほっこりとした賑わいのある駅前づくり
- 交番や休憩スペース、駐車場の設置
- 日用品や菓子屋等店舗の設置
- 空き家を解体し、公園や休憩スペースとして活用

まちづくりの方向性

- 地元商店や大山祇神社の再建等、かつての賑わいあるコミュニティや空間づくりを検討
- 古民家や空き地、空き家等の地域資源を活用するなど、新たな取組による賑わい空間の創出を検討
- 災害時において、安全・安心に避難できる避難路の確保を検討



地元商店の賑わいある空間イメージ

石畳による道路整備のイメージ

（3）駅前交流ゾーン

○まちの玄関口であり、地域内外の人々が集まる西側駅前広場を中心に駅前交流ゾーンを配置

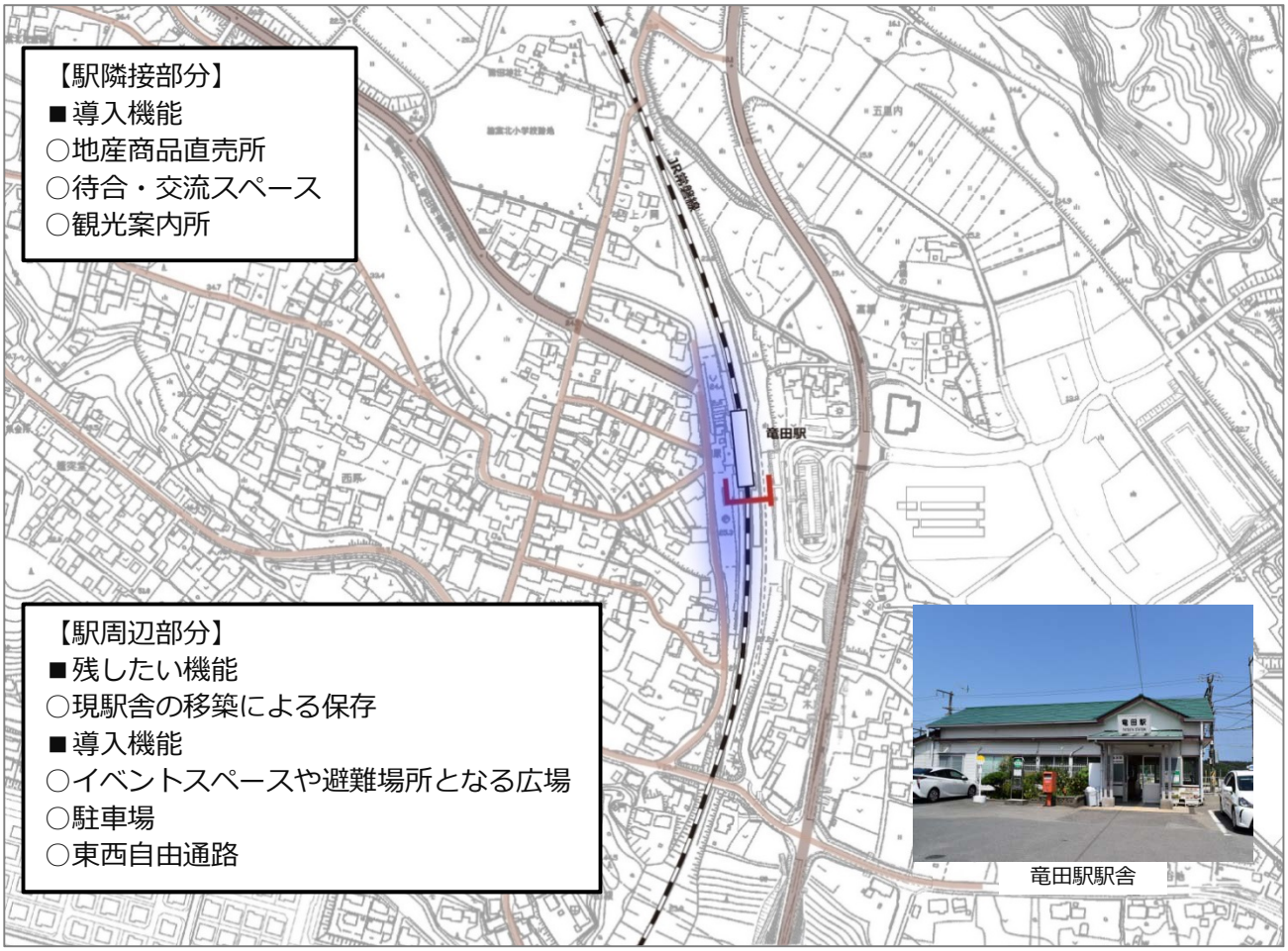
町民の主な意見

【駅舎】
- 現駅舎の移築等による保存
  ⇒売店やお土産、飲食店、観光案内所、商工案内所としての利活用
- 電車やタクシー乗降客への待合所の設置

【駅前広場】
- お祭り等のイベント広場の確保
- 来訪者への利便性の確保

まちづくりの方向性

- 地域内外の交流促進を図るため、直売所、夏祭り等のイベントスペースの創出を検討
- まちの玄関口として、周辺の観光資源との連携を踏まえた、観光案内機能等の導入を検討
- 駅前の立地特性を活かし、東西自由通路整備による東側を含めた地域の交流促進や待合機能を踏まえた、多目的施設の導入を検討
- 駅前の賑わい促進及び生活利便性の向上を踏まえ、商業機能の導入を検討
- 災害時において避難場所となる広場空間の創出を検討



（４）住環境保全ゾーン

○住環境の保全を図るため住宅系市街地を中心に住環境保全ゾーンを配置

町民の主な意見

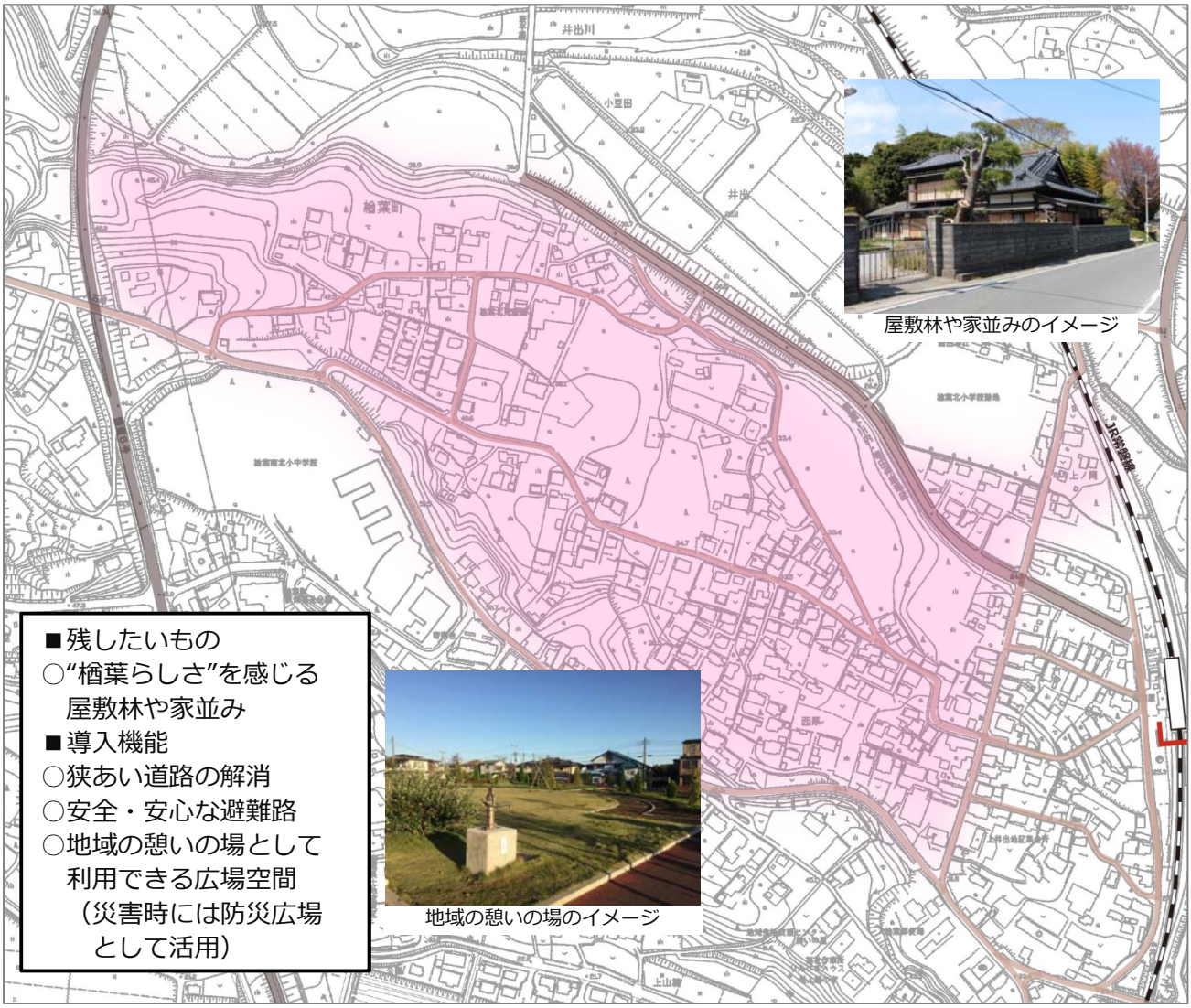
【道路・付帯施設】
- 八石・西原線は道路幅員が狭く歩きづらい

【空き地】
- 空き地を休憩スペースや団らんできる場所等を有効活用した方がよい

【景観】
- 町並みや自然景観の保全

まちづくりの方向性

- 大きな敷地や屋敷林等、“楢葉らしさ”を感じる家並みや自然景観の保全・継承について検討
- 地域住民の憩いの場として活用できる公園や広場空間の創出を検討
- 災害時において、安全・安心に避難できるよう、十分な幅員を有する避難路の確保や避難機能を有する公園、広場空間の創出を検討



屋敷林や家並みのイメージ

地域の憩いの場のイメージ

（５）北小跡地ゾーン

○歴史ある北小学校の思い出を残しながら、地域住民の利便施設や住宅地等を創出するため北小跡地ゾーンを配置

町民の主な意見

【跡地・利活用】

- 集客施設や専門学校、病院、イベント、住宅、遊び場として利活用してほしい
  ⇒意向調査では、医療施設への活用意向が最も多く、次いでイベント広場、遊び場の結果となった
- 子どもたちが楽しく遊べ、学べる環境整備
- 売却せずに貸付けた方が町の財産となる

【保存・移設】

- 樹木や記念樹、銅像、タイムカプセル等の保存

まちづくりの方向性

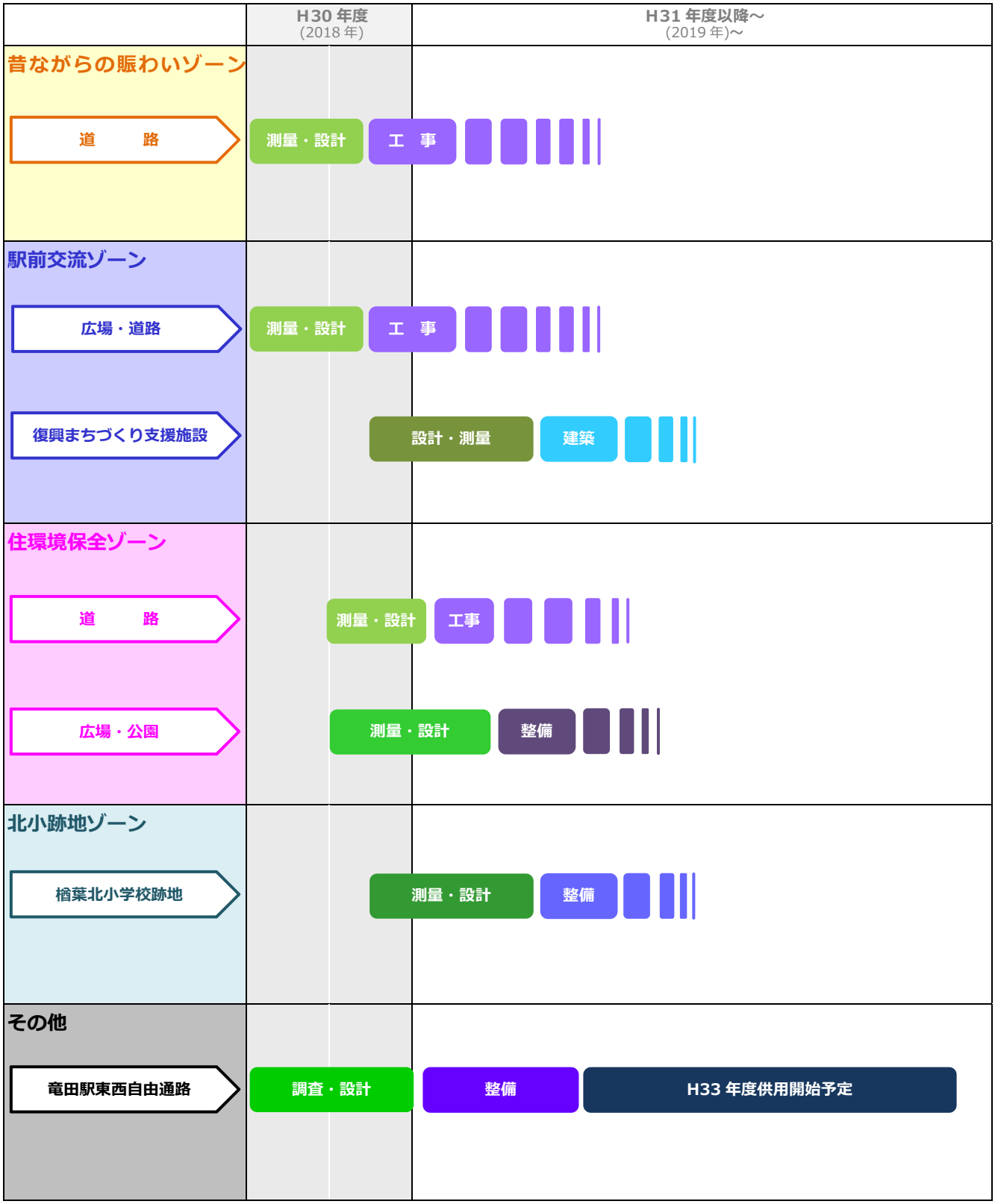
- 地域を活性化するため、子育て世帯向けの新たな住宅地の創出を検討
- 児童が安全に遊べる公園等の設置を検討
- ふるさとを思い出す利用計画や町の収益を確保する施策を検討
- 災害時において避難場所となる広場空間の創出を検討

北小跡地

二宮金次郎像

（６）竜田駅西側の整備スケジュール（イメージ）

○竜田駅西側の復興拠点の整備スケジュールについては、次のとおりです。



※上記スケジュールは予定であり、今後、変更になる場合があります。

Ⅳ章 町民のきずな・結びつき

町民のきずなを維持・発展させ、次世代を育み、ふるさとを繋いでいくための取組を整理しました。

Ⅳ章 町民のきずな・結びつき

1. 町民のきずなの維持・発展に向けた取り組み

○町民の強いきずなこそが、長期にわたる竜田駅西側の復興を支える土台です。町としても、町民と竜田駅西側が結びつきを保ちながら、安心した生活を過ごせるよう次のような施策に取り組みます。

（１）町民の交流機会の確保	①交流活動への支援
	②交流拠点の確保・活用
（２）町からの情報提供の充実・円滑化	①情報提供の充実化
	②情報発信の円滑化

（１）町民の交流機会の確保

①交流活動への支援

○地元のコミュニティの基礎となる自治会活動への参加意識の向上を図るため、自治会の活動内容について町からの情報提供の充実を図るなど、自治会組織の運営支援に取り組みます。

②交流拠点の確保・活用

○大山祇神社の再建等を後押ししながら竜田駅西側のコミュニティ拠点の検討をします。

（２）町からの情報提供の充実・円滑化

①情報提供の充実化

○町公式ホームページ、広報誌、タブレット端末等により、知りたい情報発信の充実に取り組みます。

②情報発信の円滑化

○町公式ホームページ、広報誌、タブレット端末等のほか、ならはみらい等の他法人との連携を図りながら、さらなる情報提供に取り組みます。

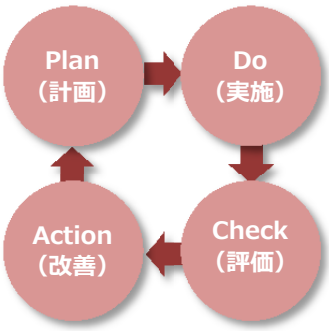
Ⅴ章 計画の実現に向けて

「竜田駅西側復興まちづくり計画」に記載された取組を推進する上での体制や、今後の課題等を整理しました。

Ⅴ章　計画の実現に向けて

1．関係者の連携による計画の推進と進捗管理

○本計画で策定した取組等を推進し、「かつての賑わいや人と人とのふれあいを取り戻し、ふるさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』」を実現していくためには、民間・行政等の幅広い関係者の連携により、町民の力を結集して取り組んでいくことが必要です。



そのためにはいわゆるＰＤＣＡサイクルにより、関係者の連携による取組を推進するとともに、その効果の検証を行い、随時改善を図る必要があります。

本計画に係る事業の実施に当たっては、事業主体や工程の明確化を行うとともに、計画の進捗管理を適切に行っていきます。

ＰＤＣＡサイクル

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の４段階を繰り返すことによって、継続的な計画の改善を推進するマネジメント手法のこと。

（１）関係者の連携による計画の推進

○本計画による事業を着実に推進するため、関係各課等の長で構成された「庁内検討委員会」を設置し、引き続き、総合的に施策を推進します。

意向調査やワークショップを行うなど、町民の声を聞き、町と連携しながら町民主体による計画の推進を目指します。

特に、将来の竜田駅西側を担う若い世代の復興まちづくりへの参画推進を図ります。

地元商店等の再生や地域活動の再開等、復興の推進に当たっては、様々な場面で連携を図るとともに、町として、その活動を支えます。

（２）進捗管理

○本計画の推進に当たっては、ＰＤＣＡサイクルにより着実な進捗管理を実施し、状況に応じて、随時見直しを行います。

各施策の進捗状況については、定期的に町民に周知するとともに、進捗が思わしくない施策については、その原因を分析し、改善に努めます。

また、今後の社会情勢や町民の意識変化に応じ、本計画における施策自体についても、見直しを行います。

2． 連携・協働

（1）国・県との連携・協働

○国・県においても、原発事故からの復興を加速させる各種構想や計画が策定されています。町としても、国や県との緊密な連携を図りながら、「竜田駅西側復興まちづくり計画」の実現を目指します。

また、国・県に対しては、必要に応じ、制度拡充、規制緩和等を求めるとともに、計画の実現に向けた人材の確保や長期的な財政支援についても併せて求めていきます。

（2）町民との協働・民間活力の積極的活用

○町民と協働・連携し、町民の思いに根差した「竜田駅西側復興まちづくり計画」を推進していきます。

復興に関する各種支援制度等を活用して、コミュニティづくりを担う人材の確保・育成を併せて推進します。

また、各種施策の効果的な推進を図るため、様々な分野の学識者・専門家・民間企業との協力・支援体制の構築に取り組みます。

3． 今後検討を進めるべき課題

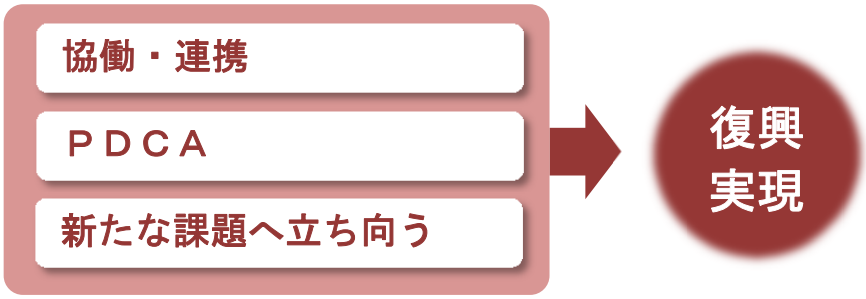
○インフラの老朽化等を含めた各種基盤整備や、空き地・空き家等によるまちの空洞化の抑制、また、狭あい道路の拡幅による災害時の避難路の確保など、防災・防犯に対する検討も重要となってきます。

こうした中、このような課題等については、社会情勢の変化や町民の意識変化等を十分踏まえながら、その方向性を検討していきます。

4．今後の計画の見直しについて

○本計画では、平成３０年度から着手し、町民の帰還状況、復興まちづくりの進捗や社会情勢の変化を踏まえながら、随時計画の見直しを行います。

また、PDCA による進捗管理を行うとともに町民、事業者、行政との協働・連携を図りながら新たな課題へ立ち向かうことにより、「かつての賑わいや人と人とのふれあいを取り戻し、ふるさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』」の実現を目指し、町民の思いを受けながら、竜田駅西側の復興まちづくりを推進します。



資料編

「竜田駅西側復興まちづくり計画」策定に係る検討委員と意向調査集計結果の概要を整理しています。

資料編

1．竜田駅西側復興まちづくり計画庁内検討委員会委員名簿

		区　分	氏　名	備　考
庁内検討委員会	1	総務課参事	青木　洋	
	2	総務課長	磐城　恭	
	3	住民福祉課長	松本　智幸	
	4	復興推進課長	猪狩　充弘	
	5	産業振興課長	片山　利夫	
	6	新産業創造室長	遠藤　俊行	
	7	建設課長	猪狩　伸之	
	8	くらし安全対策課長	山内　日出夫	
	9	教育総務課長	高木　さつき	

2．竜田駅西側復興まちづくり計画有識者委員名簿

		所　属	氏　名	備考
専門家	1	筑波大学准教授	渡　和由	
	2	(株)プレイスメイキング研究所 代表取締役	温井　達也	

3．意向調査集計結果の概要

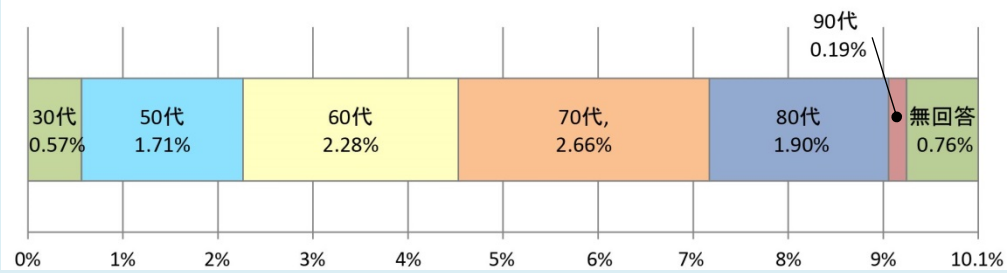
帰町に関する住民の意向（平成 29 年度）

竜田駅西側住民意向調査は、平成 29 年 11 月 28 日（火）から 12 月 6 日（水）にかけて実施しました。526 人（世帯の代表者）が対象で、53 件（回収率 10.1%）の回答がありました。調査結果については次のとおりです。

「楢葉町への帰還」について

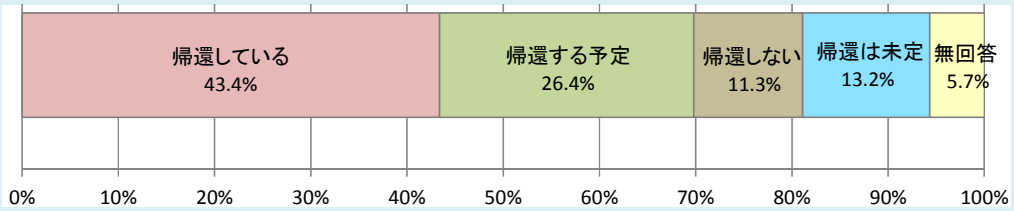
年代別について

	29 歳以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	無回答	合計
回答数	0	3	0	9	12	14	10	1	4	53
構成比	0.0%	0.57%	0.0%	1.71%	2.28%	2.66%	1.9%	0.19%	0.76%	10.1%
発送数	24	41	82	98	108	95	61	14	3	526
回収率	0.0%	7.3%	0.0%	9.2%	11.1%	14.7%	16.4%	7.1%	-	-



楢葉町への帰還について

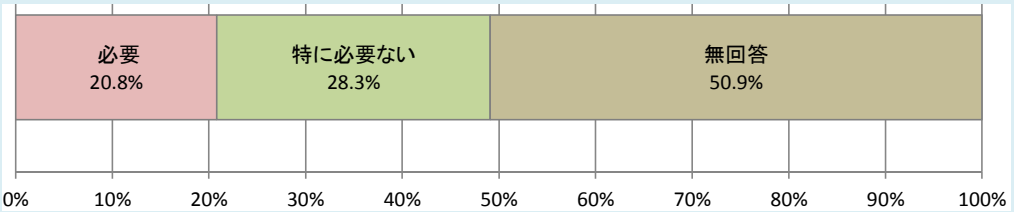
	帰還している	帰還する予定	帰還しない	帰還は未定	無回答	合計
回答数	23	14	6	7	3	53
構成比	43.4%	26.4%	11.3%	13.2%	5.7%	100.0%



【帰還する予定時期・帰還しない理由】
- 帰還する予定（平成 30 年 3 月:6 件／平成 30 年中：1 件／時期は未定：4 件）
- 帰還しない（町以外で生活基盤がある：1 件／子供の関係：1 件／仕事の関係：0 件／その他：0 件）

楢葉町へ帰還時に必要と思われる支援について

	必要	特に必要ない	無回答	合計
回答数	11	15	27	53
構成比	20.8%	28.3%	50.9%	100.0%

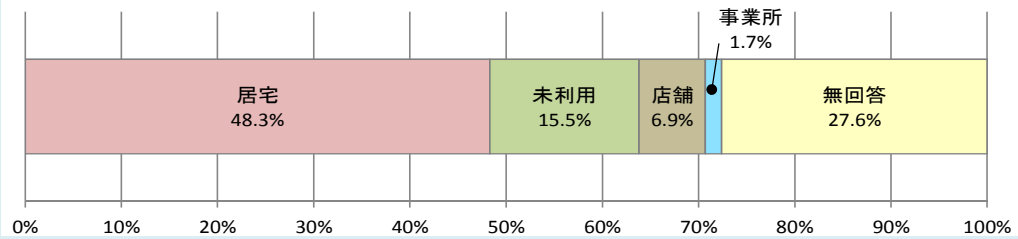


「現在の土地、建物の利用状況」について

所有している土地、建物を自己で利用している

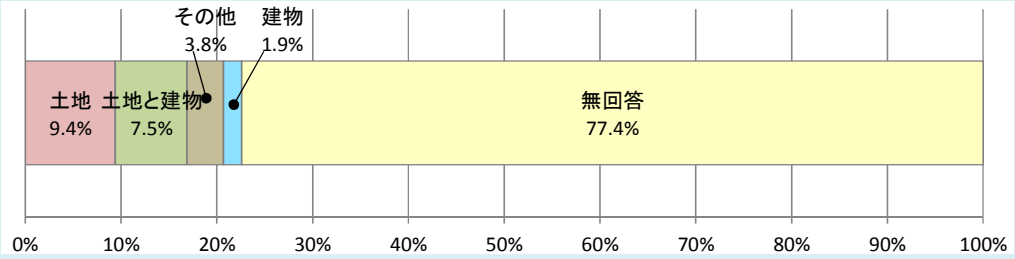
	居宅	未利用	店舗	事業所	工場	無回答	合計
回答数	28	9	4	1	0	16	58
構成比	48.3%	15.5%	6.9%	1.7%	0.0%	27.6%	100.0%

※複数回答



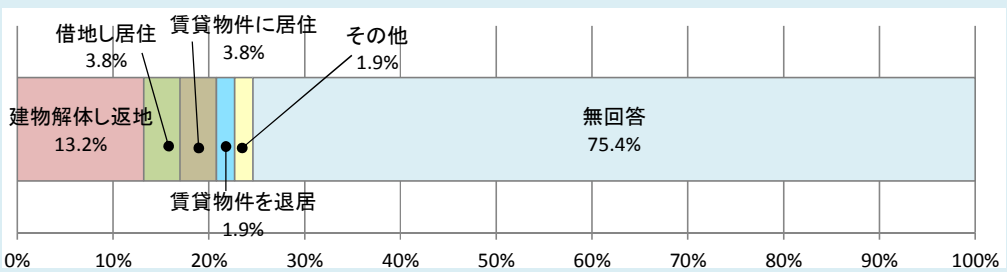
所有している土地、建物を貸している

	土地	土地と建物	その他	建物	無回答	合計
回答数	5	4	2	1	41	53
構成比	9.4%	7.5%	3.8%	1.9%	77.4%	100.0%



土地、建物を所有していない住民の方々

	建物解体し返地	借地し居住	賃貸物件に居住	賃貸物件を退居	その他	無回答	合計
回答数	7	2	2	1	1	40	53
構成比	13.2%	3.8%	3.8%	1.9%	1.9%	75.4%	100.0%

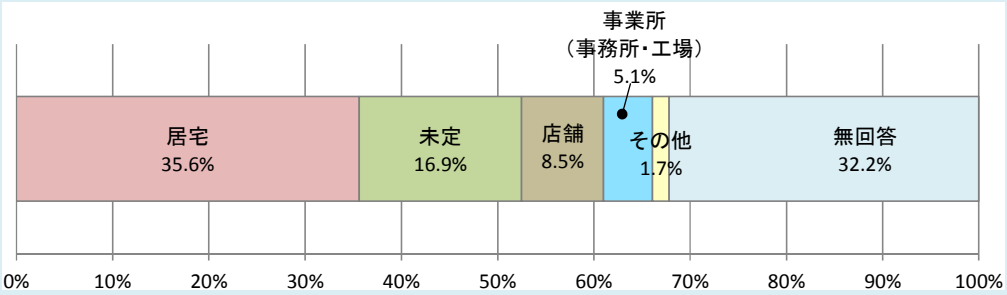


「将来の土地、建物の活用」について

自己で活用する

	居宅	未定	店舗	事業所（事務所・工場）	その他	無回答	合計
回答数	21	10	5	3	1	19	59
構成比	35.6%	16.9%	8.5%	5.1%	1.7%	32.2%	100.0%

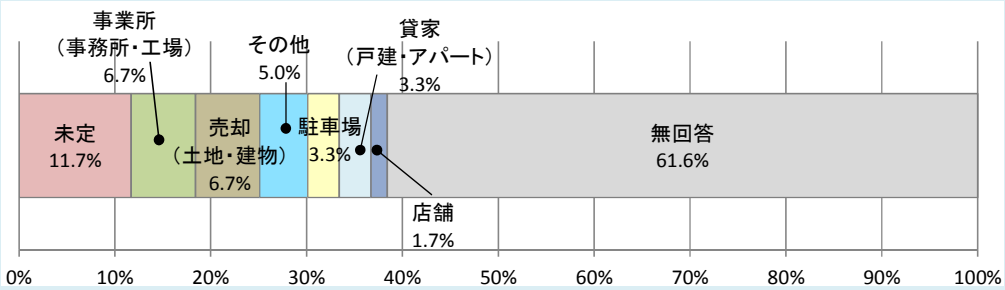
※複数回答



貸して活用・売却処分

	未定	事業所（事務所・工場）	売却（土地・建物）	その他	駐車場	貸家（戸建・アパート）	店舗	無回答	合計
回答数	7	4	4	3	2	2	1	37	60
構成比	11.7%	6.7%	6.7%	5.0%	3.3%	3.3%	1.7%	61.6%	100.0%

※複数回答



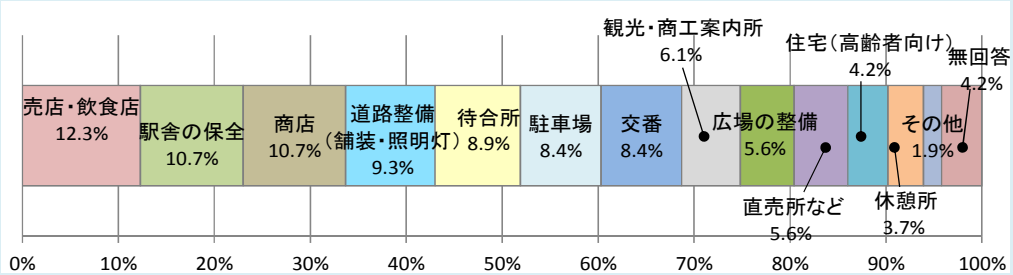
「将来の竜田駅西側」について

竜田駅や駅前広場等の魅力や利便性の向上を図るために必要だと思う施設について

	売店・飲食店	駅舎の保全	商店	道路整備（舗装・照明灯）	待合所	駐車場	交番	観光・商工案内所
回答数	26	23	23	20	19	18	18	13
構成比	12.3%	10.7%	10.7%	9.3%	8.9%	8.4%	8.4%	6.1%

	広場の整備	直売所など	住宅（高齢者向け）	休憩所	その他	無回答	合計
回答数	12	12	9	8	4	9	214
構成比	5.6%	5.6%	4.2%	3.7%	1.9%	4.2%	100.0%

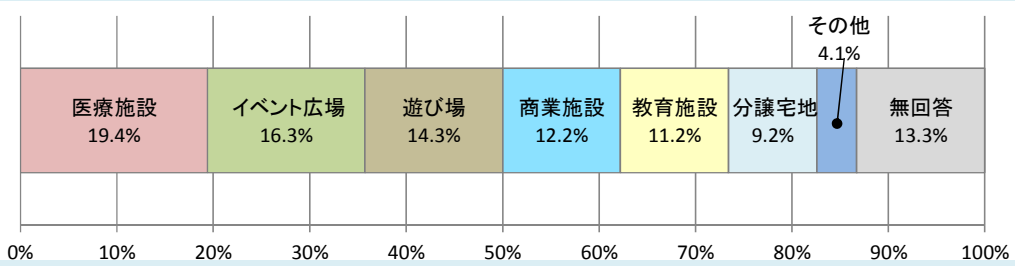
※複数回答



楢葉北小学校跡地の活用方法について

	医療施設	イベント広場	遊び場	商業施設	教育施設	分譲宅地	その他	無回答	合計
回答数	19	16	14	12	11	9	4	13	98
構成比	19.4%	16.3%	14.3%	12.2%	11.2%	9.2%	4.1%	13.3%	100.0%

※複数回答

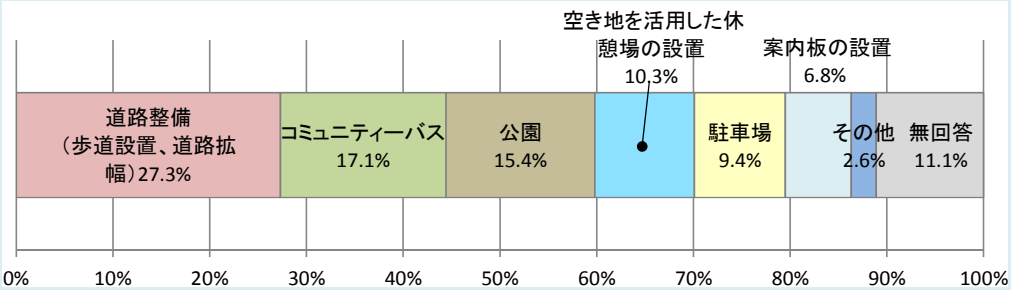


「将来の竜田駅西側」について

安全・安心なまちをつくるために、公共・公益施設として必要だと思う整備について

	道路整備（歩道設置、道路拡幅）	コミュニティーバス	公園	空き地を活用した休憩場の設置	駐車場	案内板の設置	その他	無回答	合計
回答数	32	20	18	12	11	8	3	13	117
構成比	27.3%	17.1%	15.4%	10.3%	9.4%	6.8%	2.6%	11.1%	100.0%

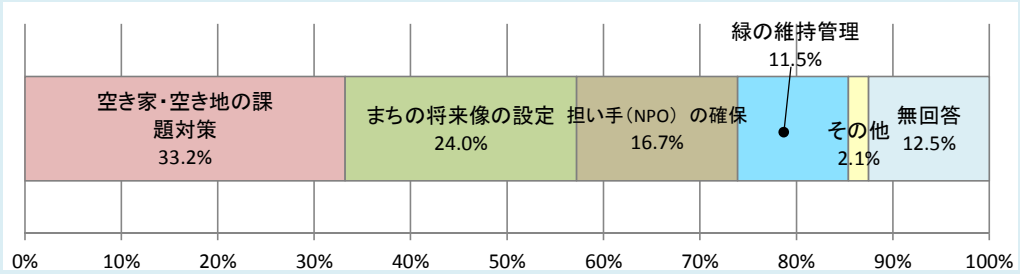
※複数回答



竜田駅西側のまちづくりを推進していくために今後必要だと思う方策について

	空き家・空き地の課題対策	まちの将来像の設定	担い手（NPO）の確保	緑の維持管理	その他	無回答	合計
回答数	32	23	16	11	2	12	96
構成比	33.2%	24.0%	16.7%	11.5%	2.1%	12.5%	100.0%

※複数回答



「意見・要望」について

竜田駅西側まちづくりに対するご意見・ご要望について

【公共施設について】

- 全体的に道路の整備が必要
- 福島県の歩いて暮らせるまちづくりのモデルになってほしい
- 国道 6 号への接続を楽にしてほしい
- 駅西側まで安全に歩けるよう歩道の整備
- スポーツ合宿に力を入れて総合グラウンドを多く活用し、若者を呼び込む
- 公園やゲートボール場、安宿を整備してほしい
- 西原から笑ふるタウンならは近くまで避難場所に使える歩道トンネルがあるとよい
- 以前、道路拡幅計画（八石～竜田駅）の計画で、委員会を発足し協議したが、大地主の理解が得られず計画が頓挫したので、大地主の協力が必要
- 街灯が少なくて夜が真暗で怖い

【空き地・空き家について】

- 空き地を活用した大胆な開発の推進
- 町で用地買収、空き家解体は早急に行い、公園や休憩所を整備
- 町外に家を建てたので、適当な価格で町に用地買収を希望
- 空き地を有効活用して整備

【子育て・教育について】

- 子どもたちが楽しく遊べ、学べる環境整備

【安全・安心について】

- 駅前に酒屋等の店舗を集約するとともに、交番を設置することで安心・安全性を確保
- 火災時に消防車が入れず、水利も無かったために全焼したことから、火災への改善が必要
- 安心して人が集まる作戦が必要。楢葉町民は、避難時にいわき市等の利便性に慣れ親しみ故郷に戻らない人も多いので、戻れない人を含めて移住を考慮

【利便性について】

- 動物病院がほしい
- 竜田駅東側より駅西側の方が利便性がよく、利用者も多いので、駅西側のまちづくりに活かしてほしい
- 近くに店舗や食事、宿泊できる場所の確保
- ゴルフ場がほしい

「意見・要望」について

竜田駅西側まちづくりに対するご意見・ご要望について

【自然環境・景観について】

- 楢葉町は自然豊かな町なので、放射能汚染ゴミや木々の伐採管理されてない駅の桜を見ると心が痛むので、自然環境の復興にも力を入れてほしい
- 林道を車椅子や杖等で安心して散策できる憩いの森や池の整備
- 町外に移住した人が"楢葉ならではの町ね"と誇れる町興しをしてほしい
- 公共施設や商店などが無くなり、地元の面影が無くなっている。新たにハード整備することも重要だが、ソフト面で既存のものを残すことも重要
- 自然豊かで景観に配慮したまちづくりにより、住民だけでなく来訪者に対しても心の安らぎや癒しを与え、また訪れたいと思えるようなまちづくりを期待

【まちづくりの方向性について】

- 竜田駅前の開発は敢えて手づくり感や地域密着型、ふる里再生をテーマに進めるべき
  ⇒駅から西側を見た時に「味があるね」、「よい雰囲気だね」といわれるまちづくり
- 町外の避難者にも帰還希望者が多くいるので、住みよいまちづくりを行い、復興できるとかつての楢葉町に戻ると確信
- 楢葉町に来た時に「駅前に武ちゃん食堂が昔もあったよね」と思い出してもらいたい震災前のように、小さな店舗が点在してほのぼのとした駅前の姿に戻れたら嬉しいので、震災前の姿を残すことも大切
- 世話好きの人が多い竜田駅西側が存続すれば自然と住みたい地域となる。新生ならはを目指すことも大切だが、笑顔で元気な人づくりも大切
- 竜田駅前を考える前に、人が集まる竜田駅、木戸駅、Ｊヴィレッジ新駅、笑ふるタウン、天神岬の利用者が何人いるのか調査し、利用者が町外の人であれば JR 利用者のための施設が必要
- Ｊヴィレッジ利用者を楢葉町に回遊させる方法を検討
- 将来の楢葉町の人口を考え、町の姿をイメージし 40 年前の姿に戻す
- 落ち着いたまち並み
- 道路は駅前から西に直線的な道路線形にすべき
- 学校、野球場、アリーナを結ぶ安全な道路整備が必要
- 北小学校跡地は売却せずに貸付けた方が町の財産となる

【その他について】

- 震災と原発事故の影響は今後も続くが、自立することで問題も早期に解決できると思う
- 今回のワークショップで出た意見要望は貴重な財産なので、少しずつ取り組むことが大切
- 今後も半年や 1 年ごとに機会を設けて、同様の取り組みを継続してほしい
- 周囲の環境変化により、現在の居場所に魅力を感じない
- 地権者の参加がなければ進展しない

竜田駅西側復興まちづくり計画

発行：平成３０年　３月

計画編集　楢葉町建設課都市計画係

〒979-0696
福島県双葉郡楢葉町大字北田字鐘突堂５番地の６
電話：0240-25-2111(代表)
FAX：0240-25-1234
編集協力：株式会社 UR リンケージ